

R7 年度 研究主題

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して」
～児童も教師も楽しいと感じる学習の工夫～

これからの学校に求められていること

現在の社会は、変化の加速度が増し、複雑で予想困難なものとなってきました。その中で生きる子供たちにとって、いかに社会の変化に対処しながら豊かな人生を歩めるかは大きな課題です。このような子供たちのために、学校には、一人一人の児童が、自分の可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。

学校の課題

本校ではこれまで、子供たちが生きる力を育めるように様々な研究を行ってきました。例えば、令和5年度には「一人一人が考えをもち、生き生きと表現する児童の育成～話すこと・聞くことの学習を通して～」を主題に研究を行いました。また、昨年度は「自分の考えをつくり、仲間と学びを深める児童の育成～思考ツールを通して～」として授業の改善に努めてきました。子どもが主体的となる授業展開、子どもが生き生きと学べる環境づくりに取り組んでいましたが、これまでの教師主導による一斉授業の枠から脱却することが課題でした。



今年度の研究

前述の本校の課題を踏まえ、今年度は、学校生活や授業の中で子どもたちが主体的に自ら考え行動することができるように、「子どもを主語」として、授業を展開できるように研究を進め、授業改善を行っていきます。これらを実現していく上では、教師が支援の必要な子供に、より重点的な指導を行うことや子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと（指導の個別化）が必要です。また、子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで子供自身が学習が最適となるよう調整できるようにしていくこと（学習の個性化）が大切です。そして、子供同士や多様な他者と協働し、その重要性を実感しながら学びを深めていくこと（協働的な学び）を、「指導の個別化」「学習の個性化」と相関させて授業を作り上げていくことが重要だと考えています。そこで、今年度の研究主題は「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して」としました。また、副題を「児童も教師も楽しいと感じる学習の工夫」としました。これは、授業の中で子供たちが生き生きと学ぶこと、また、その子どもの姿が実現した（している）状況こそが教師が授業を行う喜びであることから、学習の楽しさ、身につく嬉しさを子ども、教師ともに協働しながら味わっていけることが大切だと考えたからです。

子どもが「主語」となり、逞しく成長していけるよう研究を進めていきます。



研究の進め方

今年度は、教科ごとに3つの分科会を組織し、活動を行います。

各分科会は、研究の主題に沿って互いに授業を参観し、協議検討を重ねて授業改善を図っていきます。また、年3回の報告会を設定し、各分科会のその時点での研究の進捗状況や、そこまでの課題、成果などを報告、質疑応答などを行いながら、より精度の高い研究となるように進めていきます。年度末には、これらの結果をまとめ、次年度の授業改善に生かしていきます。また、今年度は、講師の先生をお招きし、研究主題に沿った講演を行っていただきます。

5月 基調講演



体育分科会

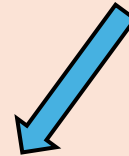
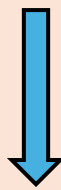
- ・指導計画の作成
- ・分科会内での授業参観
- ・参観後の協議
- ・協議を基に授業改善

総合・社会分科会

- ・指導計画の作成
- ・分科会内での授業参観
- ・参観後の協議
- ・協議を基に授業改善

生・音・図分科会

- ・指導計画の作成
- ・分科会内での授業参観
- ・参観後の協議
- ・協議を基に授業改善



報告会

7月 10月 12月

1月（年度まとめ）